

会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	会 議 ・打合せ ・協議	文書番号	—
		決裁期日	平成28年2月1日
名 称	平成27年度第5回未来創生委員会		
日 時	平成28年1月22日 午前 ・午後 9時30分～11時30分		
場 所	安平町役場早来庁舎（第2会議室）		
出席者	安 平 町 （企画財政課）木林課長、岡主幹、木村主幹 北 海 道 胆振総合振興局地域政策部戦略策定支援担当部長 高見芳彦氏（随行1名） 委 員 未来創生委員会委員8名（白川委員、西村委員、添谷委員、川崎委員、福田委員などの6名が欠席） 外部有識者 北海道銀行地域振興・公務部長 沼田和之氏 株式会社道銀地域総合研究所担当部長 飯田 治氏 北海学園大学経営学部教授 菅原浩信氏 F P オフィス・サポート代表 星洋子氏		
会議概要	<p>1 開会（進行：木林企画財政課長） ◇半数以上の参加により委員会が成立していることを宣言</p> <p>2 委員長挨拶 ◇昨年6月にこの委員会が設置され、早いもので今回5回目。 ◇「地方創生」という国が掲げた政策に対応し、全国の自治体が総合戦略を策定しているわけだが、当町でも過去4回にわたり、皆様の活発な議論のもと、素案に磨きをかけてきた。 ◇昨年12月に皆様に事前送付された資料のとおり、事務方で最終案をまとめ、住民意見を聴き、本日その報告をもって、安平町の総合戦略を決定したいと、本日同席いただいている町長より伺っている。 ◇また、この決定を1つの区切りとして、次の大きな役割である「第2次安平町総合計画」の策定についても、議論を進めていく必要がある。 ◇本日はそうした意味で、この委員会にとっても、頭の切り替えが必要となる節目の会議となる。</p> <p>3 町長挨拶 ◇皆様が参画されている未来創生委員会は、「総合戦略」と「次期総合計画」という、この町の未来をまさに創生する、2つの中・長期戦略の方向性にご意見をいただくとともに、その経過に評価をいただく役割を担っていただいた。 ◇このうち、当町の人口減少問題に対応するための「総合戦略」について、昨年6月より4回にわたって、グループワークなどを交えながらご議論をいただいた。 ◇委員会の報告書については、私もその都度拝読させていただき、実現に向けた具体的な施策の検討を行いながら、最終的に「安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略」としてまとめるとともに、現在佳境を迎えている平成28年度予算編成に具体性のあるものを反映している。 ◇ご承知のとおり、日本は今後、世界に類を見ないスピードで人口減少が進む。 ◇実は、この戦略の策定と並行して行われた昨年10月の国勢調査の速報数値が、未公表情報ではあるが報告されており、総合戦略で記載されている2015年の推計人口よ</p>		

- りも大幅に減少することが、ほぼ確実となっている。
- ◇当町の人口はこれまでも減少してきたが、今回の減少幅はこれまでに無く大きなものであり、これに対応した施策の展開が、まさに待ったなしの状態であることを改めて実感する。
 - ◇委員会の皆様にご協力いただき、町民のパブリックコメントを経て、本日この総合戦略をご決定いただくわけだが、この戦略は、策定して終わりではなく、将来に向けて必要な部分の見直しを図りながら、運用していくもの。
 - ◇効果の無いもの、時代に合わないものの改善に向けた、実施施策の検証についても、この未来創生委員会の大きな役割である。
 - ◇また、この総合戦略を包含する形で、平成29年度からの10年間における町の方向性の指針となる「次期総合計画」の策定についても、その作業スピードを加速させなければならない。
 - ◇そのような意味で、本日、まずは皆様にご検討いただいた総合戦略策定に対するご苦勞に対し、厚くお礼申し上げる。
 - ◇そして、その上で、これからの総合計画の策定、総合戦略の検証に更なる活発なご議論をお願いしたい。

北海道胆振総合振興局情報提供（戦略支援担当部：高見部長）

- ◇ 本日無事総合戦略決定ということで、管内では10番目となる。残りは苫小牧市。
- ◇ 先日、苫小牧民報に苫小牧市の人口も減り始めているというという記事があったが、圏域一体での取組が必要であり、安平町としてどうしていくのかが重要。
- ◇ 総合戦略と今後策定作業が本格化する総合計画の中で夢を描いていってほしい。
- ◇ 振興局としても様々な面でサポートしていきたい。

4 議事（議事進行：小林委員長）

（1）安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略の決定について（説明：企画財政課 岡）

【概略説明（ポイント）】

- ・ 昨年11月13日に4回目の委員会を開催し、10月時点でまとめた戦略案に対して、多くの意見があった。
- ・ 意見を大別すると「①数値目標の設定に関すること」「②総花的な施策を見直した集中化に関すること」「③追加施策の提案に関すること」「④戦略の見づらさに関すること」の4つであった。
- ・ これら意見を庁舎内で再度協議・調整を行い、11月27日の議会全員協議会を経て最終案をまとめた。
- ・ また、皆様からいただいた具体的な施策に関する意見については、「①具体的な施策例として反映できるもの」「②計画本文の文言として残せるもの」「③更なる検討が必要で本文に掲載できないもの」の3つに分類
- ・ ③については、戦略の61ページに記載し、見直しの際の参考として記録に残している。

* 上記説明後に行った「総合戦略 概略版」の資料による全体像説明内容は省略

- ・ この最終案に対するパブリックコメントの実施については、12月7日から28日までの3週間行ったが、意見は0件であった。
- ・ これを受け、本日最終案をもって「安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略」をご決定いただくこととするものである。
- ・ なお、昨年ある会議において内閣府地方創生推進室の担当者と直接面談する機会

を得たが、その際「こうした総合戦略を講じることにより人口減少に歯止めをかけることができると思うか」という問いに対し、その担当者は、「国もこれまで様々な施策を展開してきたがあまり効果は無く、人口減少対策としてどのような施策を展開することで減少に歯止めがかかるのかは分からない。だから、きちんと施策に見直しをかけていくことが重要。」と述べていた。

- ・つまり、この戦略は「作って終わり」ということではなく、毎年しっかり見直しを行いながら、効果があるものは更にその効果を伸ばして、効果がないものは廃止するという検証サイクルを作ることが重要と考えている。
- ・未来創生委員会の役割は、この見直しについて客観的に判断をいただくという部分もある。そうした参画はこれからも続いていくものであり、本日は1つの区切りではあるが、それで終わりではないことをご認識いただきたい。
- ・これらを踏まえて、本日の戦略決定をご承認いただきたいと思います。

【未来創生委員会委員からの発言（感想・今後に向けた考えなど）】

<島田委員>

- ・誘致企業会から参加しているが、雇用と教育が絡む部分もあり、委員会での発言させていただいたところ。
- ・企業誘致会としても、企業を誘致することに力をいれていきたい。また、企業誘致後のフォローについて、例えば、従業員が住むための住宅確保であるとか、公営住宅の斡旋など、誘致企業会側から発信できるような仕組みを考えていかなければならないと感じている。
- ・教育に関しても、追分高等学校を卒業した後、地元に残り働きたいという子ども達の受入れについても、誘致企業会としての使命であると思っている。

(町長コメント)

- ・追分高等学校との連携についてお話いただいたが、次期、高校配置適正化計画において、我が町の高校存続にも厳しい話が出てきている。
- ・高等学校が無くなるということは、町のイメージをはじめ、子育て世代に選ばれるまちという戦略の推進に大きなダメージとなる。今後に注視したい。
- ・企業誘致に関しては、旧学校給食センターを活用し豆腐工場が進出する、また旧富岡小学校にも企業から活用したいという話があるなど新しい芽もできてきている。
- ・当町としては、新千歳空港、重要港湾苫小牧港というダブルポートに近接するという強みを活かしていくべきであろうと考えている。

<井坂委員>

- ・若い方に住んでいただくためには、働く場所がないと厳しいということを痛切に実感している。
- ・委員として、また、金融機関として、地元企業や新たに立地した企業に対する金融面を含めた情報提供など、お役に立ちたいと考えている。

<田中委員>

- ・これだけの計画は、まとめとしては良いのであろうが、これを実行段階に移ったとき、ひとつの施策が全ての施策に関連してくることになる。
- ・個々の施策を担当する役所の担当者は、自分の担当施策が他のセクションの施策につながっていることを意識していかなければならない。
- ・1世帯を移住させようとした場合、仕事・子育て・教育の全てに関連してくる。そういう部分を念頭に置いて、仕事を進めて欲しいと思う。

- ・また、新規企業を例にとれば、実際に起業するのは個人であるが、個人を新規起業に仕向けるインパクトある制度面サポートがやはり重要であり、それをしっかりPRしなければ、起業には結びつかない。
- ・こうした点において、ぜひ役所においてご対応いただきたい。

<山口委員>

- ・感想として、この戦略策定に参加させていただいたが、5回の議論で決定せざるを得ないと伺い、ここに掲載した戦略が、本当にこの先10年・20年の安平町の未来に有益なものとして結びつくのか不安を感じる。
- ・今回先を急いで戦略策定している理由として、国の交付金というものが役所側の頭にあり、それを念頭においた戦略となっているような気がする。
- ・だから、これほどボリュームの大きなものになっているのだと思う。
- ・お願いとしては、これら掲載施策を全てこなすことは財政的にも非常に厳しいものがあると感じる。よって、これらを実行するに当たっては、何が重要なのか、どれが優先すべき事項なのかをしっかりと絞っていただきたい。
- ・また、こうした戦略を策定する際の協議メンバーについて、我々のような世代ではなく、主役となる新しい世代の方が入らなければならないと思う。
- ・主役の人たちが議論に参加しなければ、最終的に行き詰まるのではないか。
- ・私は住みやすさを求めて18年前札幌から早来に引っ越してきた。しかし、その住みやすさの実感があまりない。
- ・ぜひとも、主役となるべき世代の方たちが「住みやすい」と思えるまちづくりに資金を投入していくことを願っている。
- ・多くの施策を掲載しているが、全てを実行するのは困難。ベッドタウンとして「住むこと」に特化した方向性もあり得るだろう。ぜひ将来に残る施策として集中して実行していただきたい。
- ・最後に、振興局からも来られている。小さい町でできることには限界がある。国がすべきこと、地方がすべきことの住み分けをどのように考えているか。見解があればお聞かせ願いたい。

(胆振総合振興局高見部長コメント)

- ・国と地方の役割分担については、「子育て給付」など地方で施策を実施しても限界があり、こうした少子化対策はナショナルミニマムとして国が行うべきではないかという声が多い。
- ・地方としてやれることはやるが、国は国としてやるべきことがたくさんあるのではないかという話はどの町の有識者会議でも話題となる。
- ・北海道も市町村から「医療費助成に力をいれていただきたい」という要望をうけるが、北海道としても限界がある。
- ・また、団塊の世代が首都圏に溢れている現状から、国は本腰をいれて、人を都会から地方へ戻そうとしているものの、なかなかうまくいかない。
- ・国がやるべきこと、地方がやるべきこと、それは委員の意見のとおりであるし、また、優先順位の話もあったが、まさしくそのとおりで見直しをしながら優先順位をつけていくのは重要であると思う。
- ・なお、安平町は委員意見を総合戦略の最終ページに残している。管内でこのような配慮をしているのは安平町だけである。今後の進捗管理に期待できると思う。

<瀬田川委員>

- ・ここ数ヶ月、いろいろ話を聞かせていただき、大きく「雇用」と「子育て」として話を進めてきた。
- ・確かに生きていくなかでは、お金はあった方がいいとは思いますが、お金をいただけるなら、いただいた方が助かるのだと思う。
- ・しかし、親の立場として働かなければならない、子育てをしなければならぬという面で考えた場合、本当に足りないのは何かと考えてみるとお金ではないような気がする。
- ・20～40代の子育て世代が、そこで暮らしていて「楽しい」と思えることがなければ、長続きしないのではないかと。
- ・安平町は、スキー場、スケート場、プールなど施設が充実しているのに、そこに行っても子どもがいなかったり、土日なのに外に行っても遊んでいる子どもがいなくてという現状を見ると、親がこの町で遊ばせたいような町になっていないのではないかと。
- ・私は、安平町に引っ越して来てまだ2年であるが、自然が大好きで、それに惹かれて安平町を選んだ。
- ・この豊かな自然と施設を利用した遊びができて、親が子どもと一緒に体を動かして楽しめる町が実現できれば、人口減少に歯止めがかかり、子どもも産みたいと思えるのではないかと。
- ・親が、親同士でいろいろ楽しいことを増やしていけるようなことを、行政には行政の役割として施策を実施して欲しいし、親同士で何か楽しいことができるよう輪が広がっていけば良いのではないかと感じている。

<芳賀委員>

- ・子育てに関して、現在中学生の子を持つ親として、追分高等学校に関して、高校の良さが地元子ども達に伝わっていないのではないかと。
- ・追分高等学校に子どもを通わせている保護者の話を聞くと、就職もあり、大学にもつながっていると聞くと、それが子どもに届いていない。
- ・その点もう少し力をいれれば良いのではないかと。
- ・また、大学は札幌に行きたいという子どもがたくさんいる。その子達が卒業して帰ってきて安心して働ける就職先があるということをしかりPRすることで安心感につながり、Uターン者が増えるのではないかと。

<佐々木委員>

- ・今回参加させていただいて、自分も移住（Uターン）組であるが、この町を知りたいと思って、参加した。
- ・この戦略、委員会自体は、国の方針もあって策定・設置されているが、私はこれを契機として、自分の住む町をどうしたら良いかということを考えることが重要であり発想が広がっていくのだろうと思う。
- ・議論を通じて委員の方から様々な意見があり、それがまとめられ、一定程度施策に盛り込まれてはいるが、まだまだ議論は足りないのだろう。だがどこかで結論を出して物事を進めていかなければならない。そのような意味で、見直しをしてPDCAを回していきながら磨き上げていくことは極めて重要。
- ・決めっぱなしということが無いようにすることが重要であり、次は評価が重要だろうと思うし、委員としてこれからも議論をしていきたい。

- ・気になる部分として、先ほどの報告でパブリックコメントの意見が0件であったこと。また、先日のアンケート調査結果が17%の回答率であったこと。
- ・パブリックコメントの制度がまだ定着していないことや、出しづらいという部分もあると思うが、こうした町民の関心の薄さをどうしたら良いかということをしっかり考えていかなければならないと感じる。

<小林委員長>

- ・合併時に9,100人程度の人口があったものが、8,500人を切った状況。
- ・商工会長の立場にあるが、地域の経済が低迷しており、小規模事業者は本当に困っている。
- ・商工会としても現在、企業発達支援計画という国の認可を受ける計画を策定している。これは小規模事業者を応援するものであるが、行政と金融機関の協力がなければ成し遂げられない。
- ・戦略の中では、創業支援計画という記述もあるわけだが、これは起業化を目指す人をどのように支援していくかを考えるものである。
- ・観光協会も今法人化に向けて取組みを進めており、回遊・交流をどのように推進していくか観光協会だけではなく、行政、商工会とも一体となって考えているところである。

<菅原外部有識者>

- ・総合戦略については、様々な意見を述べさせていただいた。特にK P Iの設定では「これはないんじゃないか」という意見を述べさせていただいた。
- ・こうした意見に対応するため、役所内部は大変だったのではないかと感じている。このように取りまとめまでなされたことに、敬意を表したいと思う。
- ・そのうえで、3点ほど感想を申し上げるが、一つ目はとしてやはり策定したからには、それがしっかり実行されているかを検証していかなければならない。通常はPとDで止まってしまうがち。チェックとアクション、これが重要である。行政の人手不足は深刻であるが、どうやったのか、なぜできなかったのか、上手くいったのか、なぜ上手くいかなかったのかという振り返りは行うべき。
- ・また、外部検証が重要であるということ。役場の理論というのは必要であるがこれを外から見た考えというのも必要であり、これを合わせることでP D C Aを確立してもらいたい。
- ・2つ目として、この総合戦略、また、この後の総合計画の策定に併せて、そのほかにある個別計画について整合性の観点から見直しを行うべきであるということ。どうしても「組織の縦割り」が生じてしまうのは仕方ないことであるが、それぞれの施策の指針間で「つじつまが合わない」ということは避けるべきであり、これを契機に見直しをもらいたい。
- ・最後3点目であるが、総合戦略・総合計画ともに、施策は盛り込んだが、これらを実際に「だれがやるのか」ということを考えるべきであろうと思う。
- ・施策を書くのは簡単である。しかし、誰がやるのか、いつやるのか、いつまでにやるのかということまで考えた上で、まずは「だれがやるのか」という実施主体をはっきりさせることは必要。
- ・ただ気をつけなければならないのは、押し付けにならないようにすること。
- ・小さい町では特に実施主体は限られてしまい、押し付けにつながる。その意味では、小さい町は、みんなでやる。みんなで支えるという、体制づくりが極めて重要であり、そこを意識していただきたい。

<星外部有識者>

- ・私は、結婚、出産、子育ての軽減策部分において検討できないかと依頼があり参画させていただいているが、町民ではない外部からの参加ということで、的を射た話ができただけは反省がある。
- ・普段は個人や法人の方にすぐに実行可能なアドバイスをしているため、この総合戦略という大きな話の中では、具体的な施策案というものを出せなかったかもしれない。しかし、ファイナンシャルプランナーとして日ごろ心がけていることは、個人がどう生きるのか、どう暮らすのかということ、それぞれが真剣に考えていかなければならないのだということであり、この考え方は、未来創生委員会でも同じ。
- ・まずは良い施策とは、住民の方が安平町に住んでよかった、安平町に住んで幸せと感じていただくことであり、そういう方が町民に一人でも多く増やすことができなければ、それを外部に発信することはできない。これを意識して発言させていただいた。
- ・情報発信に力を入れたいと戦略に記載されている。住んでいる方が幸せを感じる施策を展開してもらいたい。

<北海道銀行 沼田外部有識者>

- ・多くの自治体が交付金を意識し、9月又は10月までに策定している自治体が多い中、あえてじっくりと検討されたことは、簡単に作ってしまうという考えではなく、ハートの入った戦略であると思う。
- ・KPIもしっかりしているし、委員のコメントを残して、これからのPDCAに活かされていくという考えでしっかり構築された戦略だと感じる。
- ・道内の主要な自治体の戦略は私のところに集まるが、その中で安平町の戦略に目を通すと、外から安平町に入ってくる通勤・通学者が多いとあり、これは定住戦略を実施する上でひとつのキーワードとなるものである。
- ・今後、PDCAを回していく上で、安平町外から安平町へ通勤されている方がどのような職業に付かれていれ、年齢構成はどうなっているのかということを分析された方がよいと思う。
- ・これらターゲット層が安平町に転入する際、求める住まいは、分譲の住宅地なのか、民間のアパートなのかの分析も必要で、若い方であれば戸建ての住宅よりも民間アパートを求める方が多いが、ではなぜ、転入しないのか、アパートの数なのか、告知不足なのかも分かってくる。
- ・民間アパートのオーナーは、町の土地の譲渡又は定期借地権で賃貸し、建設されるが、最近は定期借地権を活用される自治体も多い。
- ・こうした部分など、PDCAを回される際に、いろいろ分析されればよろしいかと思う。
- ・総合戦略ができた際の町民への告知方法であるが、先ほどパブコメの話も出たが、インターネットや町広報紙で出す例が多いが、本当にそれだけで良いのかは検討いただきたい。
- ・近年、行政でも、漫画を使った小冊子を作り配付する例もある。誰でも分かりやすい、あえてアナログな手法を取る自治体も多くなった。
- ・家庭において、わが町を知る機会を作っていただくことも重要かと思う。
- ・最後に、広域連携という視点も必要。広域のなかで安平町の役割というものもある。優先順位や集中すべき施策というものも、その役割から明らかにする部分もある。

<株式会社道銀地域総合研究所 飯田外部有識者>

- ・国のRESASで安平町を分析した結果、経済的に恵まれていることが分かる。

- ・例えば、安平町の産業別付加価値を診断すると農林業のウェイトが高く、一人当たりの付加価値（生産性）も、全国の中で214位である。
- ・これらデータからこの町の産業は農業であり、稼げる産業であることが言える。この強みを伸ばすことが重要であると感じる。
- ・また、安平町は珍しく、雇用者所得としてお金が町外に流れている。つまり、勤務先は安平町で、住居が町外という方が多いということを裏付けている。
- ・通常、小規模自治体は、外のお金が町に入ってくるものであるが、安平町は逆である。このことから、移住を考えるとチャンスがあると思うし、雇用者所得以外のお金については町外から町内に流入していることから、やり方次第で伸びるチャンスが十分にあることが伺える。
- ・民間消費については、町外に流れている事実があり、年間8億円が町外消費に充てられているが、これはなかなか止められない。
- ・最後に、移住定住者がこの委員の中にもいらっしやると伺ったが、こうした方たちによるネットワーク化も重要である。国は首都圏の住民を地方に分散するとしているが、これはなかなか実現が困難であると思う。ただ、北海道の中でこれほど地理的に恵まれている安平町は、売り込みしだいでは十分にチャンスがあるのではないかと。

(町長総括コメント)

- ・この戦略が総花的であるというご意見があり、役人としての欠点であるとは理解しつつ、様々な分野へ対応していくには、どうしても総花的になってしまうという実情も理解いただきたい。
- ・お話の中では、思い切ってこの町の持っている地理的条件を使って、ベッドタウン化に舵を切ってはどうかという話もあり、過去にその方向性で行けないかと私も考えたこともあったが、これは既存企業や住民の観点からなかなか難しい判断となり簡単ではないことも理解いただけたらと思う。
- ・国は、これまでの施策を見直し、改めて地方創生を進めるとしてKPIという厳しい目標値とPDCAによる見直しを求めている。これまでの行政計画は確かに作って実行して、その後の検証が無かったのは事実であり、その意味では今後はしっかりしていかなければならないと感じている。
- ・皆さんに、ご意見をいただきながら、この総合戦略を策定しているが、今まで何もしてこなかったわけではなく、国は地方創生を新たな政策と位置づけているようだが、我が町では総合戦略はこれまでの施策の延長上にあるものである。
- ・安平町は地理的優位性があるといわれ、恵まれているともよく言われる。しかし、これまで活かしきれていない現状があつて、その理由は町民が何かを仕掛けなくても、国等が開発してきたという事実で甘えてきた証拠ではないかと感じる。
- ・作った戦略を検証・見直しするとともに、誰がやるのかという部分に意識を置き、民間の皆さんに参画をいただきながら、戦略を展開していきたい。
- ・安平町は、合併10周年を向かえる。私は大きな転機だと感じている。20年・30年を見据えて施策を展開する上で、厳しい目標値をご提示いただいた。意見にもあつたとおり、役場職員はセクショナリズムに陥りがちである。縦割りを無くし、施策に取り組んでいきたい。
- ・加えて、広域の中における安平町の役割も意識していきたい。農業が基幹産業といわれたが、軽種馬産業が主体であり、本当の意味での農業という部分では弱い部分もある。むしろ、立地する工場が主体という見方もある。そうした意味で広域の中でどのような役割にあるのか検討していきたい。

【総合戦略の決定】

(小林委員長)

それでは、町の方で取りまとめられた最終案につきまして、委員会として決定してよろしいでしょうか。皆様の拍手で確認させていただきます。

(委員の拍手により決定を確認)

(2) 第2次安平町総合計画基本構想・基本計画の策定に係る諮問について

【説明（企画財政課：岡主幹）】

- ・平成28年度で終了となる安平町総合計画に代わる、新たな次期総合計画の策定については、既にこれまでの委員会においてもお話をさせていただき、当委員会外部有識者である北海学園の菅原教授に、策定アドバイザーとして就任いただくとともに、具体的な事業を開始しているところである。
- ・今ご承認いただいた総合戦略の議論から、この委員会のもう一つの重要な役割となっている、人口減少対策を含んだ、向こう10年のまちづくり全体の指針となる総合計画の策定に向けて、その検討を加速させていく。
- ・このような意味で、本日は町長が出席し、未来創生委員会に総合計画を調査審議いただくため、諮問書を手渡させていただくものである。



(町長より小林委員長に対して、朗読の上、諮問書を交付)

(3) 第2次安平町総合計画策定に係る町民参画手法について

【説明（企画財政課：岡主幹）】

- ・総合計画の策定に当たっては、まちづくり基本条例に基づく「町民参画」「共同」「情報共有」を重要キーワードとし、この未来創生委員会のほか、様々な形で、広く町民から意見や考え方を聴きながら計画を策定していくこととしている。
- ・町民参画とは安平町町民参画推進条例に規定する町民に参加いただきながら作らなければならない重要施策の要件や手法を定めたものであり、同条例第6条の規定に基づいて総合計画の策定については、ワークショップ、アンケート、審議会など複数取り入れながら進めていく。

<沼田有識者>

- ・資料に「住民政策提案制度」というものがある。住民から政策の提案を受けるといふことであれば、もう少し、分かりやすい、柔らかな表現をサブタイトルに付けてはいかがか。
→検討させていただく。

4 その他（議事進行：小林委員長）

- ・2月28日に開催する「あびら夢・未来100人町民フォーラム」の開催案内、団体アンケートの実施、総合計画策定に係る専用HPの開設について情報提供
- ・3月に第6回目会議を開催する予定である旨説明

委員長閉会挨拶

◇次回は3月を予定している。本日は長時間ありがとうございました。第5回安平町未来創生委員会を閉会いたします。

終了 11:30